

## ボーカルとピアノ奏者のアーティストを招いて、 演奏会を開催しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



8月26日、竹川病院、ケアセンターけやき、ライフサポートひなたの3施設にて、プロのボーカリストとピアノ奏者をお招きし、患者さんたちに向けて演奏会を開催しました。

8月26日に、健育会として初の試みとなるプロのアーティストによる演奏会を開催しました。会場となったのは竹川病院、ケアセンターけやき、ライフサポートひなたの3施設。舞台女優としても活躍するボーカルの井坂茜さん、ピアニストの西寿菜さんをお招きし、「懐メロコンサート」と題して各施設にて1ステージ30分ほどミニコンサートを行いました。

最初のステージは、ケアセンターけやき。通所の利用者さん・入所者さん(以下利用者さん)たちが5階ラウンジに集まり、拍手でお二人をお迎えしました。最初はお二人の自己紹介から始まり、「このお祭りの飾り付けが可愛いのですが、皆さんで作られたんですか？」と、井坂さんがラウンジの飾り付けを見て利用者さんたちに問いかけられた後、「私も昨日ちょうど地域の盆踊り大会に参加してきました。ちょっとドキドキしていますが、今日もお祭りのな雰囲気楽しい演奏をお届けしたいと思います」とスピーチされ、和やかなムードの中で演奏会が始まりました。

### 【ケアセンターけやき】



最初の曲目は「浜辺の歌」。小さい頃によく歌った曲を、一緒に口ずさむ利用者さんもたくさんいました。2曲目の「ヤシの実」では、マラカスやタンバリンを歌に合わせて鳴らしながら、井坂さんを応援。リズムに乗って楽しげに体を揺らしながら、演奏に参加しました。三曲目は「我は海の子」。私はこの曲が大好きで、つい嬉しくなって思わずステージに参戦。井坂さんや利用者さんと一緒に、子供の頃から好きな歌を大きな声で歌わせてもらいました。



後半は昭和歌謡を披露。曲目は、山口百恵さんの「秋桜」と、坂本九さんの「上を向いて歩こう」、太田裕美さんの「木綿のハンカチーフ」の3曲を演奏しました。「秋桜」では手拍子をしながら歌に聞き入る利用者さんの姿が多く、中には涙を流す利用者さんがいたのも印象的でした。「上を向いて歩こう」ではマスク越しにみんなで合唱したり、手拍子をしたり、「木綿のハンカチーフ」ではボサノババージョンのピアノアレンジを楽しんだり、計6曲の約30分間のコンサートを思い思いに楽しめました。

2ステージ目は竹川病院の2階の食堂にリハビリ患者さんが集まり、演奏会を行いました。2ステージ目も大きな声で歌う患者さんや、楽しげにリズムを取る患者さんが多くいらっしや、会場の雰囲気も一層楽しげなムードに包まれました。

## 【竹川病院】



患者さんの楽しそうな歌声や表情を見ていたら私も楽しくなってきた、竹川病院では「ヤシの実」を井坂さんと一緒に歌いました。そして、芸術や音楽といったものに触れる機会が増えることによって、幸せホルモンが出て、患者のみなさんが「頑張ろう」「生きていてよかった」という気持ちになれるということを申し上げました。

更に、同じ演目をライフサポートひなたでも演奏し、無事に3ステージが終了。

ライフサポートひなたでは、手作りの団扇やポンポンで井坂さん、西さんを歓迎する利用者さんの姿もありました。どの施設でも、患者さん・利用者さん(以下患者さんたち)の楽しげな表情がとても印象に残りました。

## 【ライフサポートひなた】



今回なぜこの演奏会を企画したかという、患者さんたちの「幸せホルモン」を出すことがその目的だったので。歌うこと、手拍子すること、音楽を聴くことで人は楽しい気持ちになれます。その楽しい気持ちによって幸せホルモンが分泌され、幸せホルモンによって自然治癒力が高まり、患者さんたちの健康にも繋がっていきます。実際に、演奏会が終わった後の患者さんたちの顔を見たら、生き生きと明るく、目がキラキラと生命力に溢れている表情に変化していました。



それは患者さんたちだけに限らず、健育会グループの職員のみなさんにも言えることです。みなさんご存知のように、我々医療グループは、“愛情を持った親身な対応”をキャッチフレーズに掲げています。患者さんたちだけでなく、我々も一緒に歌ったり音楽を聴いたりして、幸せホルモンが出るような楽しい気持ちになっていただきたい。そうすることが、患者さんたちや部下に対して“愛情を持った親身な対応”に繋がっていきます。

今回は第一回目の演奏会でしたが、今後も色々な施設にアーティストをお招きして、たくさんの患者さんたちや職員のみなさんたちに幸せホルモンが出るような演奏会を企画していけたらと思います。